

事業コード	H18-建-継-45		区 分	国庫補助 県単独
事業名	火山砂防事業		部局課室名	建設交通部 河川砂防課
事業種別	砂防えん堤工、床固工		班 名	傾斜地保全・砂防班 (tel) 018-860-2532
路線名等	白雪川		担当課長名	河川砂防課長 佐々木 卓郎
箇所名	由利本荘市象潟町大森		担当者名	主 幹 荒 木 洋
総合計画との関連	政策コード	C	政 策 名	快適で安全な生活を支える環境づくり
	施策コード	03	施 策 名	災害に強い県土づくりと危機管理体制の充実
	指標コード	05	施策目標(指標)名	土砂災害危険箇所整備率

## 1. 事業の概要

事業期間	H10 ~ H19 (10年)	総事業費	15.8億円	国庫補助率	5.5/10	
事業規模	砂防えん堤工1基、床固工4基					
事業の立案に至る背景	白雪川は標高2,236mの鳥海山を源とする流域でにかほ市へ流下する2級河川である。鳥海山は昭和49年に噴火し融雪型火山泥流が発生しており、下流域には集落農地、工場といった地元基幹産業の基盤のほか、JR羽越本線や一般国道7号などの交通の要衝が保全対象となっている。こうした背景から昭和初期より砂防施設を整備してきたが、土砂の捕捉能力が低下してきており、中流域の河床で径2~3mの巨石が堆積している。当河川のような急流河川では巨石が土石流とともに流下し、重要交通網や生活基盤の寸断、人的・経済的被害は計り知れないものとなることから、地域住民の生命・財産を保全するため平成19年度の完成を目指すものである。					
事業目的	<p>【主たる目的】 砂防施設を設置することにより、不安定に堆積した土砂や巨石が引き起こす土石流・泥流等の土砂災害から住民の生命・財産を守る。</p> <p>【保全対象】 人家495戸、耕地516ha、JR羽越本線1,351m、国道7号1,769m、県道市道71,367m、郵便局公民館15棟</p>					
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)		計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等	
	事業費	1,500,000	1,578,200	78,200	魚道設置・景観対策による増	
	経費内訳	工事費	1,223,297	1,296,805	73,508	魚道設置・景観対策による増
		用補費	51,083	51,083	0	
		その他	225,620	230,312	4,692	魚道設置・景観対策による増
	財源内訳	国庫補助	825,000	868,010	43,010	
		県 債	607,500	634,000	26,500	
その他		0	0	0		
一般財源	67,500	76,190	8,690			
事業内容	本工事 詳細設計 調査設計 用地補償	本工事 詳細設計 調査設計 用地補償				
事業の進捗状況	<p>全体計画 15.78億円 平成17年度末投資額 13.50億円 進捗率 85.6%</p>					
事業推進上の課題	特になし					
関連する計画等	「あきた21総合計画」第3期計画において、「災害に強い県土づくりと危機管理体制の充実」の施策として位置づけられている。					
情勢の変化及び長期継続の理由	事業は計画通り順調に進捗している。ただし、流域に鳥海山麓を背負っているため常時水量が多いことから、床固め工の施工には通常に比べ作業工程が複雑であるため長期化せざるを得ない状況にある。					
事業効率把握の手法及び効果	指 標 名	土砂災害危険箇所整備率				
	指 標 式	概成箇所数 / 危険箇所数				
	指標の種類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有 無	
	目 標 値 a	24.2 %		データ等の出典	危険箇所調査結果	
	実績値 b	20.8 %				
達成率 b/a	86.0 %		把握の時期	平成18年 3 月		

前回評価結果等	選定または継続	改善	見直し	保留または中止
	指摘事項			
	特になし			
	指摘事項への対応			
特になし				

## 2. 所管課の自己評価

観 点	評 価 の 内 容 ( 特 記 事 項 )	評 価 点
必 要 性	下流域には人家495戸や羽越本線、国道7号等の地域の基幹ネットワークを含む多くの公共施設を保全対象として有しており、溪流内には巨石を含む多量の土砂が堆積していることから、今後の集中豪雨により土石流災害が発生し、甚大な被害となることが予想されている。 このようなことから、地元からは砂防設備設置の要望があげられており対策の必要は高い。	20点
緊 急 性	上流部の砂防えん堤等既存施設は満砂に近い状態であり、溪流内では未だ巨石を含む土砂が大量に生産され、これが下流へ流下しており、豪雨氾濫時には土石流が発生する恐れが大きい。 また、これらが下流域の農地・集落・工場などの生活基盤へ流出し、重要交通網も寸断されるなど甚大な被害が予想されることから、現在までに一部設備は設置されているものの早急な完成が必要である。	5点
有 効 性	手段の妥当性(代替案立案等の可能性) 火山砂防事業は砂防法第5条及により都道府県知事が行うものとして位置づけられている。また被害想定範囲は広範囲であり集団移転等の代替案の実現性は極めて低い。 整備効果 対策により保全対象である多数の人家や公共施設の保全を図ることができ有効性は高い。	10点
効 率 性	費用対効果 費用対効果は1.22であり、概ね当初計画どおりで効率性は高い。 ・ 総費用の現在価値 15.3億円 ・ 総便益の現在価値 18.6億円 コスト縮減等の取り組み状況 現地発生 of 巨石を用いた粗石コンクリート工法等コスト縮減に積極的に取り組んでいる。	25点
熟 度	地域の状況 地元住民及びにかほ市との合意形成が図られており、順調に事業が推進している。 事業進捗の見込み 計画通り、平成19年度の完成を予定している。 環境対策 床固工における魚道設置や、現地発生 of 玉石張り護岸などの対策を講じている。	25点
判 定	ランク ( ) 地元からの要望が高く「必要性」「有効性」「効率性」等から事業の重要性は高く評価できる。	85点
総 合 評 価	継続 改善して継続 見直し 中止 事業継続は妥当である。	

## 3. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

当該事業の施工にあたっては、事業計画を踏まえ、災害の防除が早期に図れるように引き続きコスト縮減に留意しながら、事業を継続する。
---

## 4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を「可」とする。
----------------

評価種別 継続箇所評価  
適用基準名 砂防課所管事業

事業コード(H18-建-継-45 )  
箇所名 (由利本荘市象潟町大森 )

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	県民のニーズ				
	県民のニーズの変化	変化なしまたは増加している	20	20	
		若干低下している	10		
		非常に低下している	0		
	計		20	20	
緊急性	危険度				
	斜面、溪流等の危険度	変化なしまたは増大している	10	5	崩壊進行、地下水位上昇等 地下水位低下、残斜面安定
		若干低下している	5		
		非常に低下している	0		
	計		10	5	
有効性	災害発生時の影響				
	保全対象数の変化	変化なしまたは増加している	10	10	
		若干減少している(80%以上)	5		
		非常に減少している(80%未満)	0		
	計		10	10	
効率性	事業の効率性・進捗状況				
	費用便益分析(B/C)	2.0以上	10	5	
		1.0以上2.0未満	5		
		1.0未満	0		
	対策工法、工事に関連する課題	課題なし又は解決済みで順調な進捗が見込まれる	10	10	
		課題はほぼ解決済みであり、進捗に大きな影響はない	5		
		課題はあるが、解決する見込みである	3		
		課題解決の見込みなし又は事業が停滞している	0		
コスト縮減計画	具体的なコスト縮減計画がある	10	10		
	具体的な計画はないが、検討中である	5			
	コスト縮減計画無し	0			
	計		30	25	
熟度	地元の協力状況				
	事業の進捗状況	計画どおり進捗している(100%以上)	10	5	
		概ね計画どおり進捗している(70%以上100%未満)	5		
		計画より遅れている(70%未満)	0		
	地元住民・関係自治体等に関連する課題	課題なし又は解決済みで順調な進捗が見込まれる	20	20	用地、補償物件等
		課題はほぼ解決済みであり、進捗に大きな影響はない	10		
	課題はあるが、解決する見込みである	5			
	課題解決の見込みなし又は事業が停滞している	0			
	計		30	25	
合計			100	85	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
	優先度がかなり高い	80点以上		
	優先度が高い	60点以上～80点未満		
	優先度が低い	60点未満		